

1 研究の概要

(1) 研究主題

生活や社会の中の形や色などと豊かに関わる資質・能力を育てる授業づくり
—表現と鑑賞の関連を図る題材構成の工夫—

(2) 研究主題設定の趣旨

《学習指導要領等において求められていること》

現行の学習指導要領における図画工作科の課題を受け、平成 29 年 3 月に告示された新学習指導要領の図画工作科の目標の柱書として「表現及び鑑賞の活動を通して、造形的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の形や色などと豊かに関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す」⁽¹⁾と示されています。ここに掲げられた「造形的な見方・考え方」とは、「感性や想像力を働かせ、対象や事象を、形や色などの造形的な視点で捉え、自分のイメージをもちながら意味や価値をつくりだすこと」⁽²⁾と記されています。

このような資質・能力を育成するために 2 つの指導の改善・充実が求められています。

1 つ目は、これからの時代に求められる資質・能力を身に付け、生涯にわたって能動的に学び続けることができるようにするために、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善を推進することです。図画工作科においては児童が自分の活動を確かめたり振り返ったり〔主体的〕、自己や他者との対話を通じて自己表現を広げたり、深めたり〔対話的〕、つくったり、つくりかえたりしながら学びの実感を持ったり〔深い学び〕するような、学習・指導の改善・充実が求められています。

2 つ目は「授業で学習したことが、これからの自分たちの生活の中で生きてくるという実感を持てるような指導の改善・充実を図る」⁽³⁾ことです。このことは、芸術ワーキンググループにおける審議の取りまとめ(2)現代的な諸課題を踏まえた教育内容の見直しの中に述べられています。児童が図画工作科で学んだものを、自分の生活や将来にどう生かしていくか、ということを考えることができるような指導の工夫が求められているのです。「表現するという行為を通して周囲と関わり、生活や社会と自分との関係性を実感するという体験を重ねること、また、授業で学習したことを、授業時間以外に、学校や地域で表現する場を用意するなど、学校自体が学校における学習と社会をつないでいくことに取り組むことも重要である」⁽⁴⁾とも述べられています。

《表現と鑑賞の関連を図る題材構成について》

これらのことから、これまでの図画工作科の題材構成を「主体的・対話的で深い学び」の視点で改善・充実を図っていくこと、図画工作科の学習と社会をつなげることが必要になります。題材構成については、現行の学習指導要領においても表現と鑑賞の関連を図るように示されてきましたが、新学習指導要領でも「造形的な『見方・考え方』を働かせ、表現及び鑑賞に関する資質・能力を相互に関連させた学習の充実を図ること」⁽⁵⁾と更に強調されています。「造形的な見方・考え方」を働かせて、表現と鑑賞を関連させながら学習することで、形や色などと豊かに関わる資質・能力が育つと考えられます。

《本研究の考え方》

そこで本研究では、小学校図画工作科の表現領域の学習活動を通して、表現と鑑賞を関連させながら学習するような題材構成について研究することにします。導入で素材などのよさに気付かせる鑑賞を取り入れ、表現に生かしたり、表現の中に中間鑑賞を取り入れたりとするなど、段階的な鑑賞活動を位置付

けることで、児童が「造形的な見方・考え方」を働かせ、生活や社会の中の形や色などと豊かに関わる造形表現活動を行うような題材構成を仕組みます。また、「校外に展示をすることで、児童の作品を通して児童の造形活動の意味や価値を伝える」⁽⁶⁾とともに、学校外の方からの評価をもらうことで、図画工作科で学んだことが生活や社会の中で豊かに関わっているという実感を持つことにつながると考えられます。これらの取組を取り入れた題材構成を工夫することで、児童の生活や社会の中の形や色などと豊かに関わる資質・能力を育てたいと考え、本主題を設定することにしました。

(3) 研究の目標

児童が生活や社会の中の形や色などと豊かに関わる資質・能力を育てるために、段階的な鑑賞活動を位置付け、表現と鑑賞の関連を図る題材構成を工夫した授業づくりの有効性について探る。

(4) 研究の仮説

小学4年生における「光のさしこむ絵」の学習において、光を通す絵や素材を鑑賞する活動、児童が自分の活動を確かめたり振り返ったりしながら表現する活動、表現活動の中に素材や互いの作品のよさや違いを見つける対話活動を取り入れた鑑賞など表現と鑑賞の関連を図り、さらに学校外の方からの評価をもらうような手立てを取り入れた題材構成の工夫を行えば、生活や社会の中の形や色などと豊かに関わる資質・能力が育つであろう。

(5) 研究の方法と内容

- ① これからの図画工作科の方向性や、造形的な見方・考え方、題材構成や学習活動の手立ての工夫の在り方について、文献や先行研究による理論研究を行います。
- ② 表現及び鑑賞活動における児童の意識調査を実施し、その結果を基に実態把握を行い、題材構成や手立ての工夫を取り入れた小学校4年生「光のさしこむ絵」の授業実践を行います。
- ③ 児童の作品や学習カード等を分析・考察し、題材構成や手立ての工夫についての有効性を示します。

《引用文献》

- (1) (5) 文部科学省 『小学校学習指導要領』 平成 29 年 3 月 第 2 章第 7 節
- (2) 文部科学省 『小学校学習指導要領解説図画工作編』 平成 29 年 6 月 第 2 章第 1 節
- (3) (4) 中央教育審議会 『芸術ワーキンググループにおける審議の取りまとめ』 平成 28 年 8 月
p. 16、17
- (6) 文部科学省 『小学校学習指導要領解説図画工作編』 平成 29 年 6 月 第 4 章 4